



ゆたか福祉会キャラクター
ゆたかめくとみらいちゃん

障害者の ゆたかな **未来** をめざして



「ゴミをポイ捨てせずきちんとひろおう」 ワークセンターフレンズ星崎 加藤優さん
※紹介が10ページにあります。

CONTENTS

- ▶ 私たちの実践 リハビリテーション委員会の活動 P2～3
- ▶ ボランティア紹介 P4～5

2024年2月10日 毎月1回10日発行 一部100円（法人会員・賛助会員は会費の中に購読料を含みます）

発行 / 社会福祉法人ゆたか福祉会 〒457-0852 名古屋市南区泉楽通四丁目5番地3
TEL 052-698-7356 FAX 052-698-7358 <http://www.yutakahonbu.com/>



愛知県ファミリー・
フレンドリー・マーク

ゆたか福祉会

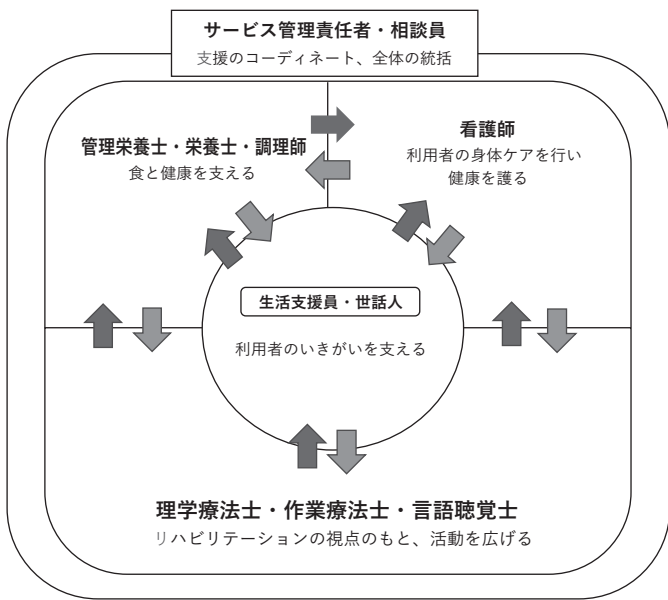
検索

シリーズ 私たちの実践
リハビリテーション委員会の活動⑦

利用者ニーズに応える多職種連携

I. ゆたか福祉会においての多職種連携

今回は「多職種連携」について報告します。ゆたか福祉会では、様々な職種の職員（図①参照）が連携して、利用者の生活や日中活動を支えています。



リハビリテーション委員会では、

リハビリを日々の実践に取り込み、利用者のより良い生活を支えるために、事業所のサービス管理責任者を中心としたチームで取り組んでいます。連携において、リハビリ職は利用者の希望も聞きながら、現状の心身の状態で「出来ること・出来ないこと」を評価し、「どういう工夫ができるか、生活の中で取り入れられることは何か」などを提案し一緒に考える役割を担います。

～訪問の主な流れ～

- ①リハビリに関与してほしい事案が発生「利用者・支援者」
- ②リハビリ訪問依頼「所長・サビ管」
- ③訪問前
事前資料（メール等）や電話での情報共有「サビ管・担当職員」
- ④訪問当日
評価前打ち合わせを行い、作業場面・生活場面の評価、個別訓練、評価後結果の確認を行う
「サビ管・担当職員・管理栄養士など」

⑤訪問後

施設内の会議で情報共有、実践を行っていく

「サビ管・担当支援員・施設全体」

⑥再訪問

前回確認した方と新たに気になる方の事前資料・電話での情報共有「サビ管・担当職員」

このような流れで、再訪問・再評価を繰り返しながら、その方の現状と施設で出来る範囲に合った最適な支援や環境を整えていきます。

以下に「多職種連携」を行っているのかを、ケースを挙げて報告していきます。

II. キラリンとーぷでの連携

ケース① Aさん

Aさんは脳性麻痺の女性の方で、職員から「時々ムセる事があり、誤嚥しないか心配。発語に関して何かリハビリ出来るようなことがあれば知りたい」と相談がありました。

初回訪問時にキラリンとーぷのリハビリテーション部の主任（生活支援員）と看護師、栄養士、外部理学療法士と事前資料でいただいた内容からの変化や詳細について打ち合わせを行いました。

Aさんは自分から困っていることを発信せず、出来るだけ自分のことは自分でやりたいという方でした。まず食事場面の評価を行い、姿勢の崩れや食具の使いづらさ、ムセが少しあることが気になる箇所としてあげられました。しかし、リハビリ職が考える良い姿勢や食具や食事形態を勧めるのではなく、本人が自分に合っていると考えている姿勢や食具、食べ方を基本的に多職種で取り組むことにしました。

外部理学療法士を中心にオーダーメイドの機の製作、食具や食事形態についても本人に意見を聞きながら実際に試してみても、Aさんが納得して進められるように少しずつ調整しました。

発語については、麻痺のために口や舌の細かい動きが難しいことと、呼吸・発声機能の低下がみられたため、訪問時に個別訓練で発

声・発語面のリハビリを実施しています。また、日常的に行えるよう全体のレクレーションや嚙下体操にもリハビリを取り入れていくように、主任と連携しています。定期的な訪問の際は、Aさんが楽しそうに一生懸命取り組んでいる様子が見られます。

このようにリハビリ職が訪問した時だけリハビリを実施するのではなく、主任を中心にチームメンバーで具体化、実践に取り組めるように、事業所の運営会議に参加しています。リハビリ職の訪問スパンである3か月継続して取り組み、次回訪問時に再評価を行い、再度打ち合わせをして支援の安定を図っています。

キラリンとーぷは入所施設であり、多くの職員が対応することから、よりチーム連携が求められています。リハビリの部署が明確にあり、主任を中心に課題や改善案の周知を徹底することで、個々の職員のための改善ではなく、施設全体で利用者の支援を改善していくことに繋がっています。

Ⅲ. みのり共同作業所での連携ケース② Bさん

Bさんは働くことに対して強い思い入れがあり、日々頑張っている作業所での仕事を続けています。しかし加齢や障害の進行から、仕事を続けることに負担を感じている様子が見られるようになりまし。本人から作業所の職員には言わないもの、違う場所では「外出が疲れるようになった」というような発言が見られるようになってきました。

作業所のサービス管理責任者より、「作業環境（椅子や机など）を本人に合ったものに変更していきたい」という相談があり、作業療法士を中心に連携を開始しました。

作業所では本人の体に合っていない机や椅子での作業を行っており、身体的にも負担がかかる姿勢になっていました。本人に「負担を感じていないか」と聞きました。「痛くない」「痛み止めを飲めば大丈夫」というような発言しかありませんでした。しかし、訪問後にホームで疲れてしまい「体に痛みが出た」という報告がありました。

現時点では本人の思いを引き出せないため、Bさんの作業姿勢を評価したうえで、負担が減るような環境変更を提案しました。

- ① 台を使ってコンテナの高さを上げ、体を動かす範囲を狭くする
- ② コンテナにクッションやバスタオルを巻き付けることで体が傾いた状態でももたれかかれないようにする

環境変化に関してBさんも受け入れが良く、「負担が軽くなった」という発言も見られています。今は単なる作業環境の変更だけでなく、本人の働きたいという思いに応えるために多職種で実践を深めていきたいと思えます。

Ⅳ. 終わりに

リハビリ職は身体機能から最速に近づけていくことは出来ませんが、常に利用者との関わりを持っているわけではないため、本人の実際の思いを汲み取ることは難しいことがあります。

生活支援員は深く関わりを持っているので、本人の思いを汲み取ることが出来ますが、現状の問題点と支援員の思いが混在してしまっ

事があります。本人の思いと支援のずれを防ぎ、本人が望んでいるニーズに近づけていくには、サービス管理責任者が『多職種連携』の核となることが重要です。

サービス管理責任者が利用者のニーズを把握し、ニーズに対して現状の状態をリハビリ職が評価します。その上で生活支援員が実践し、その中で日々の状態の変化に合わせて支援を行い、記録を蓄積していきます。

1職種の意見だけでなく多方面から利用者の様子をとらえることで多くの情報収集を行うことができます。また自身では思いを表出しにくい利用者に対して、よりニーズを明確化していくことができると思えます。

多職種連携を行っていく中で、それぞれの専門性を活かして支援を行い、チームで協力しながら利用者のニーズを叶えていくことができるように、今後もリハビリテーションの実践を積み重ねていきます。

作業療法士 西森 由里
言語聴覚士 橋絵里子



治具制作で作業改善!

ボランティア・竹下 詔二さん

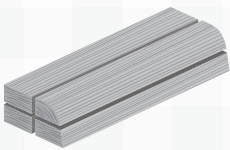
ゆたか福祉会では障害のある仲間たちがさまざまな仕事をしています。仲間たちは適性やその力にあわせて工程を担い、協力しながら作業をすすめています。支援員は依頼された仕事内容から工程を分解したり、手順を組み替えたりして仲間たちに提示します。なかには手先を細かく動かす作業や力加減や位置合わせが難しい作業があります。支援員は「こつすればやりやすくなるのではないか」「こういう道具があればできるのではないか」と思案します。治具などを整備することで解決することもあります。仲間たちが、そうしたアイデアを現場で具体化していくことは容易ではありません。日常の現場対応に精一杯で、工作に十分な時間をとることができません。また素材を吟味したり、工具類を使いこな

して制作するにもそれなりの経験や専門性が必要だからです。

竹下詔二さんは、治具制作のボランティアとしてフレンズ星崎の作業現場に10年以上にわたって、さまざまな道具を提供していただきました。大同特殊鋼株式会社の線材加工課で特殊機械の修理や調整のお仕事をされていた竹下さんは、その技術と経験をいかして障害のある仲間たちが働くうえで必要な道具を工夫して作ってくださいます。自宅にある工作機械を駆使して試作し、私たちの作業現場に何度も足を運んで、支援員の意見や仲間たちの様子をみて、道具を修正し効果を確かめていきます。現在ではゆたか福祉会内のいくつもの作業現場を行き来して、支援員のオーダーに添えてくださるの道具を製作していただいています。

竹下さんのスゴイところ

- 試作品の持ち込みから完成品の提供まで数日で対応いただいています。現場のその時々課題を手早く解決してくださいます。
- 一つの道具について現場の状況をふまえて、改良を重ねて完成度を高めていきます。使ってみて不具合があると、また手を加えます。
- 作業資材の規格の変更や仲間の変化に的確に対応するために、支援員との率直な意見交換を大事にしてください。
- 廃材を使うなど費用がかからないように気をつけていただいています。



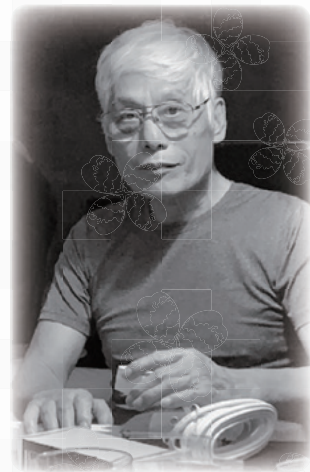
道具の紹介

① 封筒の封をとじる フレンズ星崎

ビニール封筒の封をとじる時に使う治具です。封筒をガイドにセットして上部の板を降ろすことできれいに封じめができます。ビニール封筒の封じめはズレたりやシワになりがちですが、この道具を使うことで細かな手の動きが苦手な仲間も封じめに対応できるようになりました。



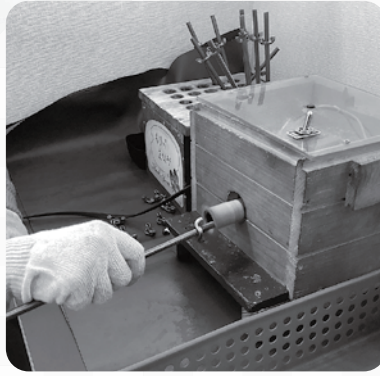
封筒の封とじ



② ナットを回し入れる

フレンズ星崎

ボルトにナットを取り付ける作業で使う道具です。握力の弱い仲間にもできる方法はないかと相談して作成していただきました。モーターが回転して中心の筒にボルトを差し込むことでねじ回しができます。扇風機のモーターを再利用して作られています。



ナットを回す

③ お茶の実を取り出す

みらいろ

殻を割り、実を取り出す作業に使用します。簡単に殻を割る方法はないかと試行錯誤の末、ハンドルをくるくる回しながら力を入れなくても楽しく殻を割る理想の道具が完成しました。これまでに比べて作業効率はずっと倍になりました。



お茶の実を取り出す

④ 部品をセットする

みらいろ

2〜3mmの間隔をあけて部品を並べる作業ですが、その2〜3mmが難しいのです。この治具に部品をはめ込むことで位置が定まります。治具を使い始めてからは7名の仲間たちが自分たちの力で作業をすすめられるようになり「できるようになって嬉しい」とたくさんの声があがりました。



部品並べ

⑤ キャップをとる

リサイクル港

ビンのキャップを取り除くための道具です。もともとは片手でビンを持って、栓抜き状のものでキャップを除去していました。手首に負担がかかるため、刃を台に固定する形で製作していただきました。ビンを両手で持てるようになり、手首への負担を軽減できました。



キャップをとる

竹下さんからのコメント

道具づくりには仲間たちがケガをしないように主に木材を使用しています。作業の手数を減らせるように仕組みを考えています。作業資材が頻繁に変わるので、一台で何役も使えるよう

重い障害のある方たちの働く場の環境整備として、こうした道具づくりは欠かせません。仲間たちの働きがいをつくり、支援員の手ごたえにもつながっています。メール作業やリサイクル事業の現場などで、生産性を高める取り組みや工賃の向上にも大きく貢献するものとなっています。

竹下さんの活動は、私たち支援員の役割を単に補うだけでなく、作業動作の考察や環境の改善のあり方についての手本を示してくれているようにも思います。見習うべきところがたくさんあります。竹下さんありがとうございました。これからもよろしくお願いします。

就労支援事業推進委員会

山崎利浩

に工夫しています。一回作って満足してはダメで、使っていくうちに「もっとこうしたいほうがいい」という思いができて、それに対応していきます。職員にはもっと遠慮せずに、意見を言ってきてほしいです。話し合いながら作っていくと、よいいいものができるからです。

を ～ 年末・年始の取り組み～

12/20 | キラリンとーぷ お楽しみ会

◆キラリンとーぷ◆

今回は統合後、初めてのお楽しみ会ということもあり、仲間みんなや職員も張り切ってツリーの準備や飾りつけを行ってくれました。

お楽しみ会当日は、全員がひとつの会場に集まることができなかつたため、2ヶ所に分かれての開催でした。みんなで協力しておこなった『サンタを捕まえる!』や『玉入れ』などの全体ゲームと、みんなが参加できるように工夫した『宝探し』や『ボーリング』など個別のゲームを織り交ぜ、楽しい時間を過ごすことができました。

また、2会場をオンラインでつなぎ対戦した『サイコロじゃんけん』では、初の試みということもあり大いに盛り上がりました。

仲間の実行委員に選ばれたみなさんが、開催の挨拶やゲームのお手伝いをしたり、サンタのコスチュームに身を包みプレゼントを配ったりと大活躍。仲間、職員と協力して作り上げたとても楽しい取り組みでした。

光岡 裕泰



12/22 | 仲間で作ったクリスマス会

◆あかつき共同作業所◆

毎年恒例のクリスマス会が行われました。今年は「仲間の実行委員だけではなく、各現場の仲間たちも主体的にクリスマス会を作る」ことを目標にしました。玄関の飾りつけやプレゼント作り（クッキー）、2カ所あるクリスマス会場の飾りつけを、各現場の仲間たちが準備しました。また、実行委員の仲間たちもサンタクロースになって、プレゼント渡しやゲームの進行、司会を担ったりと大活躍でした。

名古屋芸術大学から実習に来ていた学生さんによるピアノ演奏と、クリスマスソングのコンサートや、景品がもらえるゲームも行いました。そして地元の企業さんからいただいたケーキとジュースで乾杯など、盛りだくさんでにぎやかな会になりました。目標の通り「仲間たちで作り仲間たちが楽しめた」クリスマス会でした。

西田 八寿子



12/23 | クリスマス会

◆ゆたか作業所◆

「みんなでクリスマス会やりたいね」コロナ禍で一堂に会しての取り組みができない年が続く中、仲間みなさんの思いが募っていきました。そして当日、若者会（仲間の自治会）が主催となり、各々サンタ帽やクリスマスの衣装に身をつつみ、「メリークリスマス!」の掛け声、会長のあいさつとともに幕が開きました。久々に食堂でみんな集まってのクリスマス会です。

お楽しみ企画のくじ引きでは、サンタに扮した役員さんがくじを引きます。「38番!」など番号が読み上げられると会場がざわつきます。「はい!」と当たった人の嬉しそうな表情。

役員さんから賞品をもらい、さらに笑顔。くじが当たらず悔しがる仲間…。その後はお菓子と飲み物、最後にはプレゼント（タオルやトランプ）をもらい、楽しいひとときを過ごしました。当日お休みのなかまにも、後日、賞品やプレゼントをお渡ししました。

ゆたか作業所 若者会担当



向井会長の音頭で「かんぱーい!」



くじ引き 当たり! 「賞品どうぞ」



ブッセとジュース 「おいしいね」

暮らしの中に彩り

つゆはしショップの取り組み ～えがおきらきら ころほかほか～

◆つゆはし作業所◆

つゆはし作業所では、年2回（夏・冬）「つゆはしショップ」という販売活動を行っています。特に自主製品販売に力を入れ、その他お取り寄せ食品などを地域に向けて販売していく活動であり、売り上げの一部はなかまのボーナスへと繋がります。また、地域の人々とのふれあいや、つゆはし作業所をより知っていただける機会という点においても古くから続いてきた取り組みです。

なかま達から発足する実行委員を中心に、売り上げ目標やスローガンを決めます。地域の小中学校様には、商品の宣伝を自身の言葉で伝える営業を行います。さらに、各環境事業所様では即売会のスペースを設けていただいております。対面販売という緊張感もありますが、商品の陳列・補充、お客様への声掛け、受け渡しとなかま達は時間を重ねるたびにできることが増えていきます。自分で作ったものがその場で売れていく喜びを体感できる貴重な場です。

つゆはしショップ終了後は、目標に対してどうだったのか数字を見比べ、その中で自身のふりかえりも行っていきます。くらしに役立つモノづくりというテーマを中心に、時代の変化に合わせてながら、なかまと職員が一丸となって活動の輪が広がっていけばと思います。 唐澤 遼



□□□□□□□□

1/8

ゆたか希望の家 新年会

～4年ぶりの仲間全員でのお昼ごはん・おんがく会～

◆ゆたか希望の家◆

●お寿司パーティ

かねてより仲間から給食提供での要望が強かったお寿司。今回は市販のお寿司購入と合わせ、希望の家初となる実演でのお寿司を握るパフォーマンスを行いました。仲間も普段とは違う提供方法に興味を持ち、楽しそうな表情を伺う事が出来ました。実演で握るお寿司に興味を持つ仲間も多く、大盛況で終える事が出来ました。

今回の実演提供が実現できたのは、直営厨房ならではの仲間理解と調理師在中による技術力の賜物だと思います。今後も、食事を提供するだけの部署ではなく、仲間主体の組織として「食は命の源」をスローガンに、仲間達と一緒に実践を積み上げていきたいと思いました。 大岩 航也



●音楽会

昼食後は「ポートシンフォニックアンサンブル」の方々による音楽会を開催しました。演奏が始まると仲間達は音に合わせて笑顔を見せ、身体を動かしたり、手を叩いたりしてリズムを取っていました。最後の演奏では、事前に仲間達で作った桜の飾りを音に合わせて振っていました。

今回実行委員として参加し、お寿司を見て目を輝かせながら食べる姿、演奏を見て楽しそうに過ごしている姿を見て、嬉しさで心が満たされました。自分も仲間と一緒に楽しい時間を過ごせて良かったです。 中村 理沙子





SDGsの目標をめざそう

～はじめた学びや取り組み～

その9

ゆたか生活支援事業所みなみ プロギング活動

11月4日に、SDGsの取り組みとしてプロギングを行いました。プロギングとは、ごみ拾いとジョギングを組み合わせたスウェーデン発のフィットネスの事で、今注目のSDGsスポーツです。

今回は、南区の元塩町やその周辺の作業所やホーム、デイサービスの仲間や職員合わせて11事業所42名の方に参加していただきました。そしてジョギングではなくウォーキングをしながらごみ拾いを行いました。

開会式で説明などを受けた後、いくつかのグループに分かれ、プロギングが始まりました。1時間ほどの短い時間ではありましたが、空き缶やたばこの吸い殻、お菓子の袋などたくさんのごみが集められました。各グループの中で「あそこにごみが落ちてるよ!」「空き缶はこの袋に入れてね」などと声を掛け合いながら、ごみ拾いをされている姿が印象的でした。天気にも恵まれ、気持ちよく体を動かしながら活動することが出来ました。

参加された仲間からは「ゴミ拾っていた



開会式。たくさんの方にご参加いただきました!



皆で協力しながらごみ拾い



たくさんのごみが集まって

ら地域の方から「苦労様って声かけられたよ!」「プロギングって走りながらやるしいけど、ゴミが割とあって歩きながらがちょうどいいね」「他の事業所の仲間と一緒にやるのがまた楽しいね」「今度は町内会の方にも声をおかけして、一緒にできるともつといいね」などの声が上がりました。今後も地域の中で、みんなで参加できるような取り組みを企画していくことが出来たらと思います。

ゆたか生活支援事業所みなみ 小林みのり

ベトナムの文化を知ろう!

今月のベトナム豆知識

〈ベトナムの旧正月〉 (Tết) テト

ベトナムでは旧正月のことを「テト (Tết)」と呼びます。日本人が正月に実家に帰省するように、ベトナム人はテトは家族で過ごします。

テトが近づくと、桃の木や金柑の鉢植えの路上市場があちこちで賑わい、バイクの後ろに器用に載せて運ぶ光景が見られます。

労働法でテト休暇が5連休と定められていて、前後や振り替えのお休みを絡めると毎年7日間あります。



ベトナム語で
「あけましておめでとう」は
Chúc mừng năm mới

大晦日が2月9日(金)、
「テト」が2月10日(土)
なんだって!



仲間達の「工賃」をめぐる消費税訴訟!!

裁判所への「要請はがき」の 取り組みにご協力ください

この間広報誌上でお知らせしている、仲間達の工賃をめぐる消費税訴訟は、2022年7月に私達が名古屋地方裁判所に提訴して一年半が経過しています。次回3月18日が第7回口頭弁論となっており、判決も近いことが予想されています。私達は裁判所に公正な判断を求めています。多くの市民がこのことに関心を持っていて示す必要があると感じ、裁判所に向けて「要請はがき」の取り組みを行うことにしました。「要請はがき」はご自分の住所とお名前を記入して、ポストに投函することでご協力頂きます。送り先と必要枚数を「ゆたか福祉会本部総務部」にご連絡いただければ「要請はがき」お送りします。ぜひ多くの皆様のご協力をお願いします。

リサイクル港作業所

ロビーの掲示板に説明ポスターを貼ると、何が書いてあるのか覗き込む姿がありました。全体会で職員が説明後、一人ずつはがきを渡し、休憩時間に名前を書く取り組みをしました。

賛同する仲間の皆さんが名前を記入したはがきは、自治会長がポストに投函に行きました。

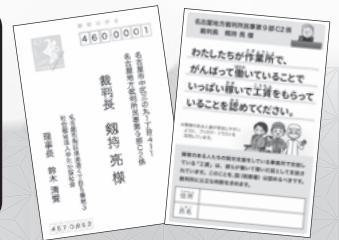


お問合せご連絡は

電話 052-698-7356

FAX 052-698-7358

E-mail kanri@yutakahonbu.com



私のおすすめ
読んでみませんか

「支える人を支える」まちを創る
福祉従事者がやりがいを持って働き続けることができる
まちづくり条例（新城市）の意義・展望

松下 啓一
穂積 亮次
前澤 このみ
長坂 宏
川窪 正典

『「支える人を支える」 まちを創る』

松下啓一 穂積亮次 前澤このみ
長坂宏 川窪正典 著

当法人で運営協議会にご参加して頂いております長坂宏さん（愛知県新城福祉会理事長）から紹介のあった本です。ぜひ、お読みください。

「支える人を支える」まちを創る
福祉従事者がやりがいを持って働き続けることができる
まちづくり条例（新城市）の意義・展望

新城市では穂積亮次前市長が「支え合う力のつなぎ目」を果たしているのが様々な福祉現場で働く人々。しかし、その人材が不足している。という問題意識から、その解決に向けて「福祉円卓会議」を創設しました。

そこから「新城市福祉従事者がやりがいを持って働き続けることができるまちづくり条例」は誕生しました。その誕生の物語が書籍になりました。地方圏の市町村には必須とも言えるこの条例、本書を通して拡がっていくことを願います。

長坂宏

風媒社 1,000 円+ 税

問い合わせ先 風媒社

TEL 052-218-7808

MAIL: info@fubaisha.com



12月

日誌

- 1日(金) ゆたか希望の家名古屋市指導監査・
実地指導 /
なるみ作業所名古屋市実地指導
- 4日(月) きょうされん愛知支部
「がんばるディ」
- 8日(金) 食と健康推進委員会
- 11日(月) 事業運営推進会議
- 13日(水) 基礎研修 /
消費税訴訟口頭弁論
- 15日(金) 新管理職合同研修
- 16日(土) 評議員会
- 20日(水) 所長会議
- 25日(月) 広報・ホームページ編集委員会 /
研修部会議



一般寄附(11月・12月)

岩田 昭子
宝南区女性会
若林 光子
篠山 治人
伊藤 澄子
後田 剛
順不同敬称略

賛助会員新規加入者・更新者(芳名一覽)

(12月7日~1月5日 手続き分) 順不同敬称略

丹羽 幸吉
岩田 恒子
鈴木 やす
ダイキ米穀店
鈴木 直人
金田久美子
伊藤 勝久
宇野 廣昭
加藤 禎男

堀池 育志
青木 一博
野村 文男
稲垣 孝雄
川端 幸代
瀬口 昭代
高橋 温美
猪飼 節美
細川志喜子

榎山 桂子
株東海共同印刷
松島 時子
株エステム
岩崎 正夫
田中 正二
高木 真美
廣島 和枝
金原 匡志

遊佐 和美
矢満田智広
村松 敦子
寺部 洋子
西尾 明
岩崎 武利
株想設計
御崎コンベヤー(株)
神田 清一

表紙の作者紹介



ワークセンターフレンズ星崎
加藤 優さん

「ゴミをポイ捨てせずきちんとひろおう」

加藤さんは、就労継続B型現場でダイレクトメール作業を、一所懸命取り組んでおられます。学校を卒業して3年目。時にするどい発言をしたり、歌舞伎のものまねをしてみんなを笑わせたり、いろいろな顔を見せてくれています。絵がとても上手で、電車などは何も見ずにリアルな絵をさらっと描いてくださいます。

朝、気持ちの切替えが苦手な加藤さんに、「好きな絵を描くことで改善できないか」と作業を始める前に10分だけ絵を描く時間をもつようにしました。SDGs ポスターの絵はその時に制作したものです。

「フレンズの周りにもたくさんゴミが落ちているからなくしたい」とフレンズ近辺の風景を書き上げました。そして、ゴミをあらわす毛糸や折り紙、金属の破片などを丁寧に貼り付け、時間をかけて完成させました。

広報・493号

2024年2月号(2024年2月10日発行)
定価1部100円
法人協力会員・賛助会員は会費の中に購読料を含みます
発行・編集 / 社会福祉法人ゆたか福祉会
印刷 / 株式会社東海共同印刷

法人協力会費・賛助会費・寄附金など福祉会への申し込み、ご送金は

法人協力会費 = 年間1口6,000円、
賛助会員(個人1口3,000円、企業団体等1口5,000円)

●銀行口座 名義はいずれも社会福祉法人ゆたか福祉会

- ・三菱UFJ銀行 柴田支店 普通預金 291-884
- ・中京銀行 鳴海中央支店 普通預金 150-425

●郵便振替口座 00820-8-54026 社会福祉法人ゆたか福祉会

仲間

「定年を迎えても自分らしく」

ゆたか生活支援事業所なるお 梶野 秋子さん



梶野さんはゆたか希望の家やゆたか鳴尾寮、ゆたか通勤寮を経て2016年、改装

したゆたか鳴尾寮の2階に移転した「わかばホーム」に入居されました。

一般就労では弁当屋さんでの仕事を経験された後、車の洗車機などを製造する会社に就職され、長年働いてこられました。そして2024年の1月で65歳を迎え、2月で会社を定年退職されました。

退職後の生活や仕事の事については、「日中ずっとホームで過ごすのは嫌」との話があり、作業所やデイサービスなど、本人の意思に合った日中活動の場を見つけていきたいと思っています。休日はガイドヘルパーを利用して外出したり、ホームの旅行や行事にも積極的に参加されています。昨年の10月にはコロナ禍以来、久しぶりに富士山方

面への一泊旅行に行き、サファリパークでの猫との触れ合いを楽しまれました。

また最近はいドルグループ

にはまっており、テレビ番組にメンバーが出たり、CDやDVDが発売される事を知ると、嬉しそうに話されています。

これからは新たな日中活動の場を見つけないが、趣味の事を含め、ホームでの生活を自分らしく続けていけるよう一緒に考えていきたいです。

井上 樹穂



□□□□□□□□□□□□

職員

「多様な暮らしを支えるために、最善を尽くす」

ライフサポートゆたか 早勢 滋



私は、2012年度に知人の紹介で、パート職員として、ヘルパーとグループ

ホームの生活支援員を兼務する形で働きはじめ、2018年度に正規職員となりました。2019年度に主任となり、介護福祉士の資格を取得。2021年度から副所長となり、現在に至ります。

近年は「ガイドヘルパー講座や「強度行動障害支援者養成研修」の講師として、また法人の「研修部」や「運動委員会」等にも携わらせていただき、貴重な経験をさせていただいています。現在、月100名を超える方に「ライフサポートゆたか」をご利用いただき、パート職員含む約30名が「利用される方の多様な暮らし」と、この事業を支えてくださっています。

私の事業所内での仕事は、サービス提供責任者として、計画書等の書類作成、担当者会議への参加、様々な依頼を調整する仕事をしながら、送迎や通院、余暇支援等のガイドへ

ルプやご自宅に訪問し、掃除や洗濯等のホームヘルプを行っています。

ヘルパー事業は、他事業と比べると、利用していただく方と直接関わらせていただく時間は、短い場合が多い事業です。それでもライフサポートゆたかを利用していただいている時間が、その方にとって少しでも「楽しい時間」「安心して過ごせる時間」となるようにと願っています。

また「家族や関係事業所にとって「信頼できる」「次も利用したい」と思える」事業所でいられるようにしたいです。今後も多くの方にお力添えいただきながらになるかと思っていますが、自身の最善を尽くしていきたいです。



□□□□□□□□□□□□

わたしたち成人式を迎えました



トライズ
猿渡 光希さん

入職したのは2022年4月。南養護学校時代から「高い給料をもらいたい!」と熱心の実習を行い入職されました。現在はトライズA型で風雨や酷暑にも耐えながら、昭和区のビン回収を担っています。

入職当初は、歳の離れた作業集団に戸惑い悩んでいましたが、面倒見のいいベテランの仲間や、特定の職員とコースを固定して作業する中で、少しずつ作業や人間関係にも慣れていきました。

この間の進歩が素晴らしく、言葉で表すなら「飛翔」の2023年でした。これからも体調管理に気をつけ、さらに飛躍してほしいと思います。心の中に秘めた色々な思いや願いも聞かせてくださいね。トライズ一同、みな応援しています。

「成人おめでとう!」



ゆたか通勤寮

2024年成人式を迎えた仲間は1名です。18歳で高等部卒業後、企業の特例子会社に就職し、それと同時にゆたか通勤寮に入寮され、こつこつがんばって成人の日を迎えられました。

1月7日夜の「仲間の会全体会」で、仲間の会から成人のお祝いの花束を照れながら受け取り、みんなに「頑張ろう」と励まされていました。

翌日8日の成人の日は、スーツも髪もぼっちり決めて、通勤寮近くの宝南小学校での式に参列し、成人の決意をかためてみえました。その後、写真を取り、遠く離れて暮らすお母様に送り、喜んでいただいたようです。

ワークセンターフレンズ星崎 酒井 飛翔さん

フレンズ酒井です。今は就職を目指して日々頑張っています。成人の日を迎え、両親をはじめ、これまで多くの人の支えがあって今の自分があることを改めて感じています。

これからは私自身が少しでも誰かの支えになれるような人間になれるよう精進していきたいと思います。

《職員からのメッセージ》

成人おめでとうございます! 簿記やMOSというパソコン関係の資格を取得したり、筋トレを200日以上連続で続けていたり目標に向けてコツコツ努力されている酒井さん。まずはこのまま就職に向けて頑張ってください!

「成人おめでとう!」

